

教師ノート

日付	2020年 4月12日
単元	イースター
テーマ	死への勝利
タイトル	墓からよみがえったイエス様
テキスト	ルカ24:1-12
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヨハネ11:25
AG 日曜学校教案参照箇所	小上1-5
□導入	<p>メッセージを始める前に、①4月はイースターに関するお話を聞くことを伝える、②十字架から埋葬までの経緯を説明するなど、必要に応じて前置きをしましょう。(ヨハネ19:32-35、ルカ23:49-56を参照してイエスさまは完全に死んで間違いなく葬られたことを確認しましょう)</p>
□ポイント1 女の人たちは、イエス様のからだがお墓の中に見てきました	<p>ユダヤ人の安息日は金曜日の日没に始まりました。イエスさまの体を十字架から降ろしたのは安息日の始まる直前で、葬りのために十分な準備をする時間がありませんでした。ですから、女たちは最小限必要なことだけをして、安息日が終わるのを待っていたのです。(小学科上級1巻343参照)〈週の初めの日〉は日曜日ということになります。女たちは待っている間、居ても立ってもいられなかったことでしょう。</p>
☆「女たちが途方にくれて」いた(4節)理由について、こどもたちといっしょに考えましょう。	<p>新約時代のユダヤのお墓(イエスさまのお墓)は、岩を掘って作る横穴式が一般的でした。埋葬については日本の習慣と違う点を理解しましょう。火葬ではなく、香料をぬって、布をまき、そのままお墓に入れます。お墓の中は人が入れるくらい大きくて、その入り口は、大きな岩でふさがれます。</p> <p>女たちはイエスさまの復活について聞いていたはずなのに、それを全く理解していませんでした(ルカ9:22, 44-45、13:32-33、18:32-34)。天の御使いに叱責され、女たちはそれを思い出しました。</p>
□ポイント2 ペテロもイエス様のからだがお墓にないのを確かめました	<p>女たちはそれを11弟子に伝えましたが、彼らはそれを「たわごと」(原語では精神錯乱によるうわごと。英訳ではおもにナンセンス)だと思い信じませんでした。</p> <p>ペテロは実際に確かめに行きましたが、やはり墓は空っぽでした。「かがんでのぞきこんだところ、亜麻布だけがあつた」とはつきり状況が描かれてきます。このことから、先の女の人たちが見間違えたとか、幻影を見たとかではなく、本当に墓が空っぽだったことが読み取れます。(12節がかっこ書きになっているのは、この節を欠いている写本があるためです)</p>

□ポイント3 イエス様は、死に勝利されました

お墓が空っぽだったという、このテキスト全体の内容から、自然と「イエスさまは復活された」という結論に導かれます。

(少なくとも、女たちが墓を間違えたのではないこと、弟子たちがイエスの体を盗んだのではないことがわかります。)

イエスさまは死に打ち勝ったチカラある神の子(ローマ1:4)だからこそ、私たちに永遠の命を与えることができるのです。(1コリント15:45)

もし仮に、イエスさまが復活しなかったのなら私たちの罪は赦されていないので永遠の命はありません(1コリント15:17、ローマ4:25)。しかし、今週のテキストからもわかるように、「イエスさまは墓からよみがえった」のです。

イエスさまが死に打ち勝って墓からよみがえられたのと同様に、私たちもよみがえるのです。(今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。1コリント15:20)

☞「メッセージ参考アウトライン」では、「キリストの復活と信者の永遠の命の関係」について、参照聖句を開いて説明する時間をとっていませんが、メッセージをする教師は、これらの箇所を読んで、確信をもって復活を語れるようにしましょう。

□結論 イエス様は死に勝利されよみがえられて、今生きておられます。イエス様がよみがえられたように、わたしたちもよみがえります。

☆どうすれば、永遠の命を得ることができるのでしょうか？ こどもたちに自由に考えさせたあとで、暗唱聖句を読み上げます。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

□適用

☞希望のメッセージで締めくくります 例…

「イエスさまを信じる人にとって、死ぬことは、怖いことではありません。死ぬのが怖い人や、死んだ後どうなるのか心配している人はいませんか？ クリスマスは、死んでも天国へ行って永遠に幸せに生きるのです。」

「病気になってあと少しの命だとわかって、希望に満ちていられるのはダレでしょう？ そんなことができるのは、イエスさまを信じて永遠の命をいただいているクリスマスだけです。」